

# はしがき

---

## 1. 調査研究の目的

インバウンド観光による地域振興が、全国各地で関心の高まりをみせている。これまで都市部に偏っていたインバウンド観光は、新たな体験を求める外国人観光客の増加や民泊や農泊の振興策もあり、どの地域も急速に増加する外国人観光客を取り込もうと取り組みを始めている。旅行者のニーズは、多様であり、そうしたニーズを上手にとらえて、地域資源を活用した取り組みを展開できるかが、大きな分岐点になる。

しかし、それは、「言うは易く、行うは難し」であることは、これまでの我が国における「グリーン・ツーリズム」と呼ばれてきた「農村ツーリズム」、すなわち旧型の「アグリツーリズム」の展開がよく物語っている。

本報告書は、東北地方6県および新潟県（以下、「東北圏」という。）における新型の「アグリツーリズム」を、どのように持続的なかたちで展開するのかという問題意識で、2016年度から2年間、現地の調査ならびに東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）検討委員会（以下、「本委員会」という。）および東北発・新型アグリツーリズム・フレームワーク検討会（以下、「本フレームワーク検討会」という。）での議論を踏まえて作成したものである<sup>1</sup>。本報告書のこれまでにない特徴として、以下の2点を指摘できる。

第一に、本委員会および本フレームワーク検討会が重視したことは、これまでの我が国の旧型の「アグリツーリズム」の課題が、どこにあるのかをまず明らかにすることである。そして第二に、それらを踏まえて、東北圏の長所や独自性を活かした、新型の「アグリツーリズム」の方向性を展望することであり、それが、本報告書の目的である。

旧型の「アグリツーリズム」が我が国で振興が図られて、20年以上になるが、その課題となる点を現代的な観点から整理したものは、これまで見当たらない。その点で、本報告書の新しさがある。

さらに、そうした課題を克服するべくエビデンス・ベースによる新たなタイプの「アグリツーリズム」を提起している点がもう一つの新たな試みである。本報告書において新型として提起した「アグリツーリズム」は、東北圏の人々が豊かな自然環境と伝統の下で育ててきた極めて魅力的で地域性あふれるライフスタイルを基本としている。東北圏ほど、この点で豊かな個性を有する地域は、国内はもとより海外においても見当たらない。地域の人には何気ないと考える日常性としてのライフスタイルこそが、来訪者にとって、かけがえのない非日常性を提供できるのである。東北圏こそが、このライフスタイルを活用した新型の「アグリツーリズム」の展開にふさわしい場所である。

---

1 東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）検討委員会は、委員全員による全体討議の場であり、東北発・新型アグリツーリズム・フレームワーク検討会は、専門領域等のテーマ毎に各委員が個別に集まり実施した分科会である。

インバウンド観光では、しばしば出遅れているとされる東北圏であるが、新型の「アグリツーリズム」が持つ、そのポテンシャルを一気に開花させ、大きな発展を遂げることも期待される。勿論、そのために克服すべき課題も少なくないが、「意欲」と「志」を共にする仲間のネットワークがあれば、克服は十分可能と考えている。本委員会のメンバーは、そうしたネットワークの環の一人として、今後とも本報告書で提起した構想の実現へ向けた支援を惜しむものではない。

最後に、本報告書が、そうした道筋の一里塚として、些少なりとも貢献できれば、本検討委員会メンバー一同の喜びとするところである。

## 2. 調査研究体制

本調査研究は、本委員会および本フレームワーク検討会等を中心に、実態調査を踏まえながら、討議の場において議論を重ねながら進めてきたものである。

### (1) 東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）検討委員会（委員構成）（※順不同）

大江 靖雄（※委員長）：千葉大学大学院 園芸学研究科 教授

和山 アマンダ：岩手県政策地域部国際室 主事

ピアッツァ レナータ：支倉プログラム 代表理事

小坂 典子：(株)JTB 総合研究所 コンサルティング第一部 研究員

笠間 順子：Jプランニング 代表

安部 雅人（※事務局兼務）：(公財)東北活性化研究センター地域・産業振興部 課長

### (2) 主要スケジュール

#### 2016年度

本委員会および本フレームワーク検討会等の組織設置等、「東北発・新型アグリツーリズム」調査体制の準備を行った。

- ◆ 東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）第1回検討委員会の実施(2017年1月29日) (仙台市)
- ◆ 東北発・新型アグリツーリズム・フレームワーク検討会(第1回)の実施(2017年2月17日) (仙台市)
- ◆ マンチェスターメトロポリタン大学 Harold Goodwin (ハロルド・グッドウィン) 名誉教授他による「遠野市・石巻市における地域再生取組調査」への同行(2017年2月22日～2月24日) (岩手県遠野市・宮城県石巻市)
- ◆ マンチェスターメトロポリタン大学 Harold Goodwin (ハロルド・グッドウィン) 名誉教授による特別講演会「責任ある観光」“Local Identity: Sense of Place and Responsible Tourism”の開催(2017年2月24日) (仙台市)
- ◆ 東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）第2回検討委員会の実施(2017年2月24日) (仙台市)
- ◆ 東北発・新型アグリツーリズム・フレームワーク検討会(第2回)の実施(2017年3月30日) (仙台市)

## 2017年度

本委員会および本フレームワーク検討会等の開催に加えて、現地調査等を実施し、その調査結果等をもとに「東北発・新型アグリツーリズム」の可能性に関する報告書を作成した。

- ◆ 東北発・アグリツーリズム（発展タイプ）第3回検討委員会の実施(2017年4月27日)（仙台市）
- ◆ 農家レストランの実態調査を目的に、仙台市若林区荒井にある「もろやファーム キッチン」を訪問し、農家レストランに係わる実態調査の実施(2017年4月27日)（仙台市）
- ◆ 「体験プログラム」を主体にした着地型アグリツーリズム(宮城県栗原市)およびクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)（山形県上山市)他の視察(2017年7月8日～7月9日)
- ◆ 東北発・新型アグリツーリズム・フレームワーク検討会(第3回)の実施(2017年10月12日)（仙台市）
- ◆ 「東北発・新型アグリツーリズム」報告書作成(2018年3月)

### 3. 執筆分担

執筆の分担は、次のとおりである。(※順不同)

氏名	執筆分担
大江 靖雄	(本編) 序章(共著) 第7章 まとめ
和山 アマンダ	(本編) 第5章 The Viewpoint of Foreigner Living in Tohoku I What Makes Tohoku Special - From a Foreigner's Standpoint (翻訳) 東北圏在住の外国人からみた視点 I 東北圏特有のもの - 外国人の視点から -
ピアッツアレナータ	(本編) 第6章 The Viewpoint of a Foreigner Living in Tohoku II Tohoku and Tourism: Problems, Potential, Projects (翻訳) 東北圏在住の外国人からみた視点 II 観光と東北圏：問題・可能性・プロジェクト
安部 雅人	(本編) 序章(共著) 第1章 都市農村交流の現状 第2章 「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者 I - 上山市におけるクアオルトの事例研究 - 第3章 「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者 II - くりはらツーリズムネットワークにおける取り組みの事例研究 - 第4章 「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者 III - 山形県立農林大学校における挑戦者を育成する課題と方向性 - (資料編) 付録 I 国内インバウンドにおける東北圏の状況 付録 II 国内旅行消費におけるSNSの活用 付録 III 国内インバウンドにおける訪日外国人の旅行消費動向 付録 IV 国内インバウンドにおける訪日外国人の入国空港別消費動向

(注1) 氏名については、「姓」・「名」の順序となっている。

#### 4. 執筆者紹介(※順不同)

大江 靖雄 (おおえ やすお)

北海道大学大学院環境科学研究科修士課程修了・博士(農学)

(現在) 千葉大学大学院園芸学研究科(食料資源経済学コース) 教授

※ 大江 靖雄・研究者・国立研究開発法人科学技術振興機構・新世代研究基盤リサーチマップ (researchmap), <https://researchmap.jp/read0055516/> 参照。

和山 アマンダ (わやま あまんだ)

ラトガーズ大学 (米国・ニュージャージー州立大学) アジア言語文化学部日本語学科卒業

(現在) 岩手県政策地域部国際室 主事

ピアッツァ レナータ (ぴあつあ れな-た)

ベネチア大学東洋学部日本語・日本文化学科卒業

ロンドン大学大学院東洋・アフリカ (国際関係、政治科学) 研究科修士課程修了

(現在) 支倉プログラム 代表理事

安部 雅人 (あべ まさと)

東北大学大学院国際文化研究科国際地域文化論専攻 (イスラム圏研究講座) 博士課程前期修了  
東北大学大学院農学研究科国際資源政策学講座資源環境経済学専攻資源政策学分野博士課程  
後期修了・博士(農学)(※国際開発学)

(現在) 公益財団法人 東北活性化研究センター地域・産業振興部 課長

※ 安部 雅人・研究者・国立研究開発法人科学技術振興機構・新世代研究基盤リサーチマップ (researchmap), <https://researchmap.jp/dr.masato/> 参照。

#### 5. 謝辞

本報告書の作成に当たり、ご多忙の中にも拘らず現地調査へのご協力や貴重な資料提供を賜った一般財団法人猪苗代町振興公社、上山市温泉クアオルト協議会、上山市役所クアオルト推進室、公益財団法人上山城郷土資料館、観光庁観光戦略課調査室、一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク、蔵王テラポイント協会、(株)JTB 総合研究所、一般社団法人東北インアウトバウンド連合、農林水産省、一般財団法人東松島みらいとし機構、もろやファーム キッチン、および山形県立農林大学校の皆様方に対しまして心からの御礼を申し上げます。

また、熱心なご議論をいただいた本委員会の各委員の方々、そして、「東北発・新型アグリツーリズム」の検討を語る貴重な機会をご提供して戴いた公益財団法人東北活性化研究センターの海輪誠会長・渡辺泰宏専務理事・木村研一常務理事、そしてさらに、地域共生および地域振興の観点から貴重なご助言を頂いた東北電力(株)の長谷川登常務取締役(火力原子力本部副本部長)・宮本保彦執行役員部長 (広報・地域交流部)・山形安生副部長 (広報・地域交流部)・加藤靖一副部長 (広報・地域交流部) に対しましても心より御礼を申し上げます。

平成30年3月

東北発・アグリツーリズム (発展タイプ) 検討委員会 委員長  
千葉大学大学院園芸学研究科(食料資源経済学コース)  
教授 大江 靖雄